

学校だより

学校目標「豊かな心とたくましい体を持ち、

自ら進んで学習、活動できる子どもの育成」

ひびきが丘



学力特集号（平成28年11月28日）

北九州市立ひびきが丘小学校

校長 小笠原 有子

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	言語知識理解は基礎ができていた。物語を読んで内容を深く考えたり、書く力を問われたりする問題に課題があった。読む力や書く力をつける必要がある。
国語B	話すこと・聞くことについては、基礎的な力がついてきている。目的や意図に応じて、自分の考えを筋道立てて書いたり、目的に応じて効果的な読み方を工夫したりするなどの問題に課題がある。
算数A	数と計算領域において、基礎的な問題が良く理解できていた。割合の問題に課題があった。その他の領域についても定着を図る必要がある。
算数B	数と計算領域において、文章問題が良くできていた。数量関係をとらえる問題など、問題文の記述内容が複雑になると無回答が増え、課題である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none">テレビやビデオ、DVDの視聴時間が長い（3時間以上が約半数）こともあり、10時前に寝る児童が約25%と少なく、就寝時刻が全国と比較して遅い。宿題は必ずすると答えている児童がほとんどである。しかし、家で自分で計画を立てて勉強する児童が全国に比べて少なく、一日1時間以上勉強する児童も少ない。授業においては、ノートにめあてとまとめを書いて学習している。しかし、授業で発表する時にうまく伝わるように話の組み立てを工夫することは苦手ととらえている。同様に、自分の考えを書くときにその理由が分かるように気を付けて書くことを苦手と感じている児童も多い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 算数では、計算の仕方や自分の考え等を図や式や言葉を使って表現する時間を取る。自分の考えを発表し、みんなで話し合うことで、課題を解決するような学習を行う。
- 高学年においては、週に1回ワークシートに新聞記事を読んだ感想や場面を想像したことを書くなどの学習に取り組みせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自分で計画を立てて、一日1時間以上学習することの推進
- 早寝・早起き・朝ごはんの励行